

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子どもの広場高畑		
○保護者評価実施期間	2025年11月25日 ~ 2026年1月16日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 12人	(回答者数) 7人	
○従業者評価実施期間	2025年12月1日 ~ 2025年12月12日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 4人	(回答者数) 4人	
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月9日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	国際色豊かな利用児がいるため、多様性が身に着けることができる。	簡単な日本語で会話をする。日本語苦手な利用児にも過ごしやすい環境づくりに努めている。イラストや文字で見えるようにあらゆるところを見える化している。	日本の遊びだけでなく、各国の遊びを教えてもらうなどして交流を深めている。
2	活動プログラムを利用児一人ひとりのニーズに合わせて支援を行っている。多職種の体制のより、多角的な支援を提供している。	活動プログラムを利用児の発達状況を踏まえて定期的な内容を見直している。また、職員それぞれの専門性や強みを活かし、質の向上に努めている。	保護者からのニーズも定期的な把握し、見直しを継続的に行う。また、職員研修等受講し、専門性の向上を図り、質の高い支援提供に努める。
3	学習、運動、遊びと各職員がそれぞれの得意とする強みがあり、協力し合いながらチームを作ることができている。	個別支援計画作成時の担当者会議では、各職員が得意としている分野で意見を出すことができるような環境作り、人間関係作りを努めている。	自信が持てるよう支援の方法に正解はないことを職員に伝え、各自が考えるいろいろな支援方法に挑戦できる段取りをする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所のスペースが狭い。室内イベントは限られた内容となる。	建物の構造上、難しい課題である。	公園に出かける等して大きく体を動かす機会を増やしていく。感染症リスクが高まる為、換気、マスク着用、手洗いうがいを徹底していく。
2	重度障がい児・ダウン症の子の受け入れが難しい。	職員の人数、体制が整っていない為。	非常勤を含め、職員の人数を増やすことを検討。研修を重ね、対応できるよう知識を得る。

3	父母の会等実施していない為、保護者同士の交流の場を設けていない。	就労している保護者が多いため、平日の開催が難しく、土日は家事等で多忙という情報がある。	集めることができる保護者だけでも年に一度は、父母の会を開催してことを今後検討していく。
---	----------------------------------	---	---